

アフリカ圏 ジンバブエ国

背景：

1994年から1995年にかけて実施されたジンバブエ国ムニャティ川下流域農業開発計画調査に国際耕種のスタッフが参加し、これを契機にカウンターパートとの付き合いを通してジンバブエ国との交流が始まった。マスカット基金による具体的な活動として、まず日本国内において「英語圏・アフリカ地域に限定した現地 NGO の活動実績調査と資料収集」を行った。そして、それまでの交流も考え併せて、活動の対象国をジンバブエと決定した。次に、将来連携して活動できる現地 NGO を選定するために、現地調査を実施した。選定に当たっては、住民参加、適正技術、適正規模、持続可能性といった言葉をキーワードとし、以下の諸点を重視した。

- 我々のこれまでの経験を生かすことができるような、活動内容や対象地域であること。
- 農業や村落開発を実施しており、地域に根ざした活動を目指していること。
- 持続可能性・環境保全・住民参加などを重視し、かつ実際に現場を持って活動していること。

現地調査の結果を基に作成したジンバブエの NGO データベースを検討し、連携相手として相応しい NGO を選定し、マスカット基金による活動を開始した。活動の一環として、国内外の援助機関による NGO に対する支援の仕組み及び助成機関・制度に関する資料収集も同時に行った。

活動：

1999年2~4月

農業農村開発を中心に活動を展開している以下の NGO を連携対象として選定した。それぞれの活動内容やスタッフの意向等に関する詳細を把握するため、実際の活動に同行し日常の活動を共にした。

- Zvishavane Water Project (ZWP)：組織の規模は小さいものの、半乾燥地域に属するジンバブエ中南部における地域住民の生活向上を目的としている。活動としては、Water Harvest (集水技術)の利用や住民参加型の土壌保全等が中心である。具体的には、中・小規模ダムの建設、コミュニティグループガーデンへの支援及び小規模灌漑、雨水の集水と利用、養魚、家畜飼育、水土保持等の活動を行っている。
- Zimbabwe Women's Bureau (ZWB)：活動は全国展開で、組織の規模が大きく組織体制も整っている。住民参加を重視し、地域住民の社会基盤の改善、持続的な地域開発を目的として、農村部及び都市周辺部の女性及びその家族を対象とした研修活動、情報提供、資金援助等を実施している。

本調査は在ジンバブエ日本大使館による草の根無償資金協力の案件発掘を目的とした外部委託業務の一環として実施した。調査の結果を踏まえ、各 NGO より外務省の草の根無償資金協力事業に申請書の提出を行った。

2000年12月

活動状況の視察ならびに支援材料発掘のために、現地調査を実施した。その結果、ZWP に対して新事務所建設や台風と洪水によって破壊されたいくつかの小規模ダム緊急復旧工事に対する資金援助を行った。

2001年8月

ZWP は、各コミュニティを巡回しながら施設の修理や啓蒙・普及等を行う移動型ワークショップを確立するというアイデアを抱いていた。そこで、現地 NGO を支援するための開発福祉支援事業という JICA のスキームの活用を提案し、提案書の作成を支援した。

2002年4月

小規模ダム復旧工事の進捗状況の把握を行った。また、他ドナーにとっては支援対象でない技術協力部分に着目し、グループガーデンの野菜栽培技術レベルの把握とその技術指導に関する支援の必要性と可能性を探った。その結果、ダム復旧工事予算の残金を、育苗技術の改善と小規模金融をからめた活動として始めることに合意した。



自然の岩山を利用した集水



住民参加によるダム建設



グループガーデンによる野菜栽培